

リーディングスキルの向上による、学習指導要領の目標の達成をめざした学習指導の改善
—「主体的に学習に取り組む態度」の育成のために—

会津若松市立北会津中学校 教諭 長谷川 徹

1 研究の趣旨

平成30年(2018年)に新井紀子氏が『A I v s . 教科書が読めない子どもたち』(東洋経済新報社)を著し、日本人の読解力の低下を指摘した。新井氏の主張の根拠となっているのが、全国2万5000人(当時)を対象にした読解力調査「リーディングスキルテスト」(RST)である。福島県教育委員会は、リーディングスキルが向上すれば全国学力・学習状況調査の正答率も高くなるのではないかとこの仮説のもと、RSTを用いた学力向上を「頑張る学校応援プラン」に続き「学びの変革推進プラン」においても主要施策として位置づけている。

本研究は、上述した県の施策および発表者が在籍していた相馬市教育委員会、相馬市立中村第一中学校の方針を受けて、学習指導要領の示す目標を達成するためにリーディングスキルの向上および授業や家庭学習の指導を改善することを目的として、以下の仮説を設定した。

授業実践と家庭学習の指導において、リーディングスキル向上のための取り組みを行い生徒の基礎的・汎用的読解力を向上させること、およびRSTの視点からの授業改善を行うことは、学習指導要領の示す各教科の目標の達成、特に「主体的に学習に取り組む態度」の育成につながるのではないかと。

2 研究の概要

(1) リーディングスキル向上のための授業実践および改善

生徒が教科書を正しく読めるようにするため、『令和2年度A I時代を生き抜く読解力向上事業リーディングスキル向上実践事例集』(令和3年6月 福島県教育庁義務教育課)に示された「RSTを活用した授業改善のポイント」を踏まえ、ワークシートの改善を行った。

- RSTの【係り受け解析】の視点から、教科書の表現を生徒にとって「親密度の高い言葉」に置き換える。
- RSTの【具体例同定(辞書)】の視点から、学習活動の意図や目標を明確に言語化して生徒に伝えるとともに、授業者が意図した通りの学習活動を生徒に行わせるため、ワークシートの作成にあたり「思考ツール」を用いる。

(2) リーディングスキル向上のための家庭学習の指導

生徒が毎時間記入する《まとめ・振り返り》について、単元の終わりに教師が評価を行った後で結果をフィードバックするとともに、RSTの【具体例同定(辞書)】の視点を踏まえ、「教科書から使いたい言葉」として各小単元における重要な語句や概念を示し、それらを用いて《まとめ・振り返り》をもう一度書き直させる指導を行った。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- RSTの視点からワークシートの改善、発問の工夫、単元構成の工夫を行ったことで、生徒の記述する内容が学習指導要領の示す目標に近づくとともに、読みやすく内容を把握しやすい文章へ変容した。
- 「主体的に学習に取り組む態度」では、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面について、好ましい変容が見られた。

(2) 今後の課題

- 受検したRSTのデータの取り扱い方法や、小学校から中学校に引き継ぐ際の方法について明確ではなかったため、中学校においてデータを取りまとめ、そのデータをもとに指導方法を工夫、改善したり、指導に生かすための手立てを組織的に考えたりすることを十分に行えなかった。